

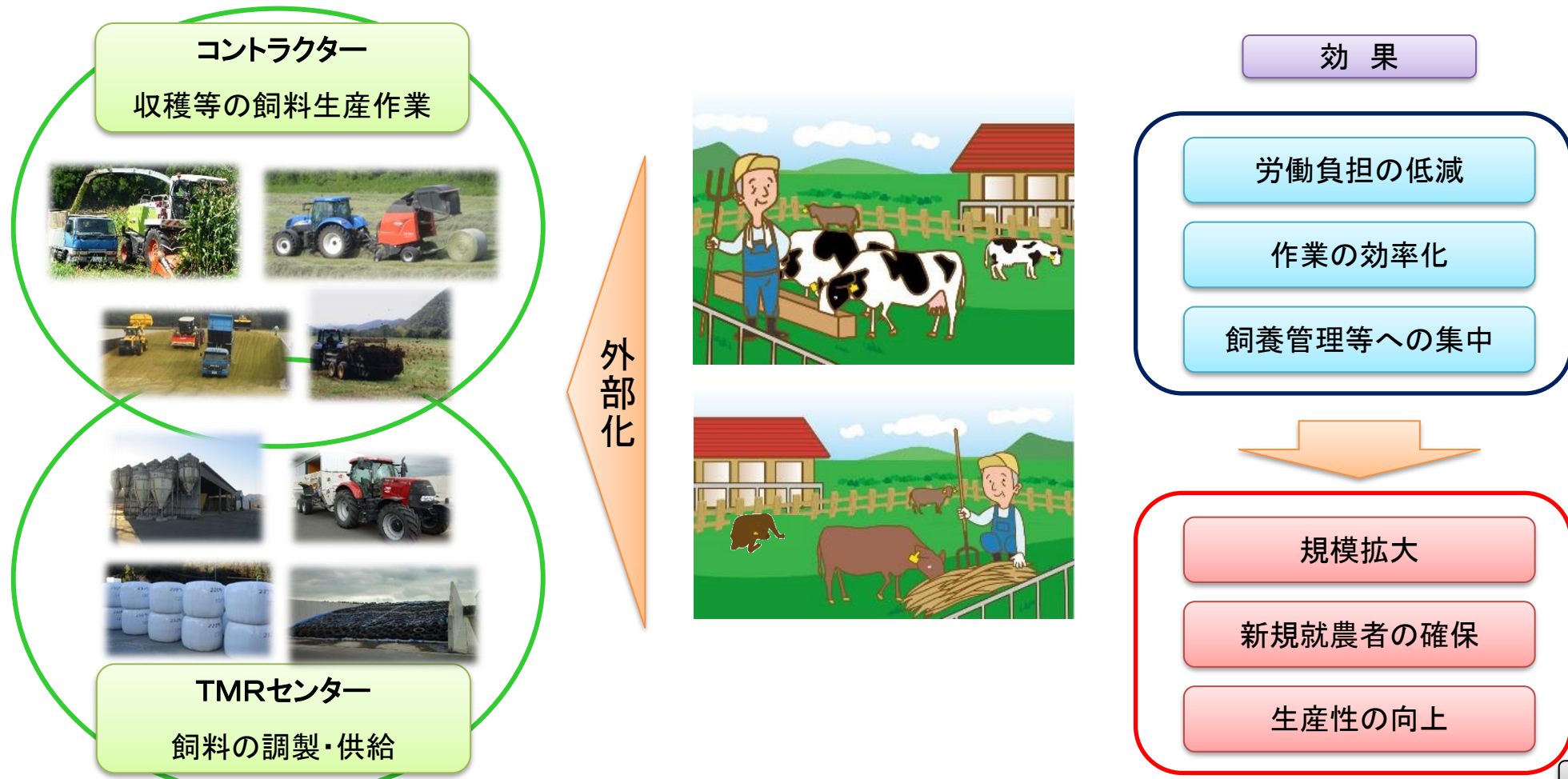
# 飼料生産組織をめぐる情勢

令和4年3月

農林水産省

# 飼料生産組織について

- 近年、高齢化や後継者不足等により、畜産の飼養戸数が減少するなど生産基盤の縮小が進んでおり、農地の利用集積による作業の効率化や離農跡地等の積極的な利用による粗飼料生産基盤の強化が課題。
- 法人化などによる大規模経営が展開される中、飼料生産作業を外部化し、家畜の飼養管理に集中することで生乳の増産を図る経営が増加。
- 飼料作物の収穫作業等を受託するコントラクターやTMRの調製・供給を行うTMRセンターは、飼料生産に係る外部支援組織として、畜産農家の自給飼料生産や飼料調製に係る負担の低減につながる重要な組織。



# コントラクターの普及・定着

- 飼料生産におけるコントラクターは、畜産農家から、播種や収穫などの自給飼料の生産のための作業を受託する外部支援組織。令和3年のコントラクター等(※)の組織数は821組織。
- 農地の利用集積、高性能機械の活用や専門技術者による作業を通じて、飼料生産作業の効率化、飼料作物の単収の増加や栄養価の向上に貢献。
- ICTの利用等とともに作業体系の見直しによる効率化の取組への支援や粗飼料生産販売の拡大による組織の運営強化への支援等により、良質な国産粗飼料の生産・利用拡大を推進。

(※: 契約に基づき粗飼料生産・販売を行う組織も含む)

## コントラクター等組織数の推移、地域別組織数(R3)

○コントラクターの組織数は、令和3年には821組織うち北海道が3割、九州が2割を占める。

	H20	H25	H30	R元	R2	R3
全国	522	581	826	858	836	821

### 《地域別組織数(R3年)》

北海道	東北	関東	北陸	東海	近畿	中四国	九州	沖縄
213	145	137	14	32	13	92	170	5

## コントラクター作業スケジュール(北海道における一例)

○ 飼料作物生産作業は5~10月頃に集中するため、コントラクターへの委託は農家等の作業負担軽減に繋がる。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
牧草				施肥		収穫 施肥	収穫 施肥	収穫		播種		
とうもろこし					施肥 播種				収穫 施肥			

## コントラクターの主な受託作業



堆肥散布

- ・専用の施肥機等で完熟堆肥を圃場に散布。



とうもろこし播種

- ・専用の播種機で牧草やとうもろこしを播種。



牧草収穫

- ・専用の機械で牧草等を刈り取り、予乾作業後に集草し、ロールに圧縮したり、バンカーサイロに搬入。
- ・専用の収穫機で青刈りとうもろこし等を収穫し、バンカーサイロに搬入。
- ・専用の収穫機でWCS用稲を収穫・圧縮・梱包。



青刈りとうもろこし収穫



WCS用稲収穫



バンカーサイロ詰込

- ・バンカーサイロで牧草等を踏圧し密封。
- ・専用の機械でWCS用稲等をラッピング。



ラッピング

# TMRセンターの普及・定着

- TMRセンターは、牛が必要とする全ての栄養素をバランスよく含んだ飼料(TMR: Total Mixed Ration)を調製し、畜産農家の庭先まで配送する外部支援組織。令和3年のTMRセンター組織数は160組織。
- 良質で品質の安定したTMRを通年供給することにより、畜産農家の飼料調製にかかる労働力の軽減、乳牛の泌乳量の増加に貢献。また、飼料調製のための高度な知識を持たない者による畜産経営への新規参入を容易化。
- TMRセンターの施設整備等への支援により、国産粗飼料の生産・供給体制の構築を推進。

## TMRセンター組織数の推移、地域別組織数(R3)

- TMRセンターの組織数は、令和3年には160組織に増加。北海道が半数以上を占める。

	H20	H25	H30	R元	R2	R3
全国	85	110	143	156	158	160

### 《地域別組織数(R3年)》

北海道	東北	関東	近畿	中四国	九州
88	17	33	1	3	18

## TMRとは

TMR(Total Mixed Ration)とは、粗飼料、濃厚飼料、ビタミン、ミネラルなどの各種飼料を給与家畜の要求量に合わせてバランスよく混合した飼料のこと。

長所として、均一な飼料を通年給与できることで乳量や乳成分を高位安定させることができる、飼料給与の機械化が可能になる等が挙げられる。



TMR



給与

## TMRセンターの主な業務内容



牧草等粗飼料の生産



飼料用の調製・保管



TMRの調製



TMRの配送

# 飼料生産組織の取組事例

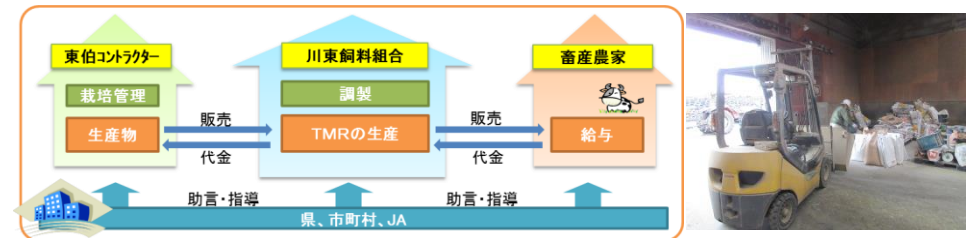
## コントラクター（JA鹿追町）

- 平成5年度から、事業を開始。耕起、整地、播種、収穫、堆肥・スラリー散布等の作業を受託。
- 収穫作業の受託面積は、約6,000ha（延べ面積（H30））
- GPSガイダンスシステム及び自動操舵を活用し、効率的な作業を実施。



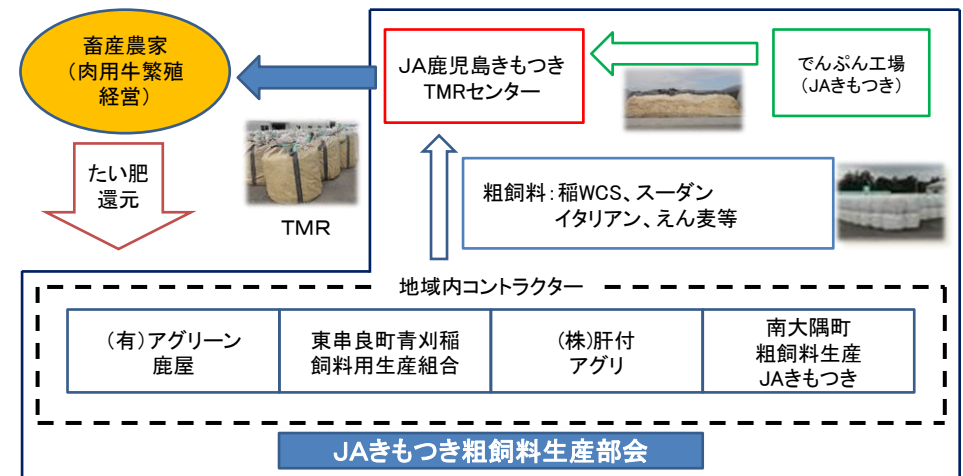
## TMRセンター（川東飼料組合）

- 平成18年度に酪農家3戸がTMRセンターを設立。従業員は雇用し、TMRの給与方法等飼養管理の技術指導については大山乳業農協と連携。
- 酪農家3戸の生乳生産量が伸びたことから、利用者が増加し、現在は8戸（H30）。利用者ごとの設計に従って製造を行っている。



## TMRセンターとコントラクターの連携（鹿児島きもつき農業協同組合）

- 平成23年度にTMRセンターを設立。肉用牛繁殖経営にTMRを供給。年間生産量は約6,000トン。
- 農協と地域内のコントラクター4組織により、粗飼料生産部会を設立。良質粗飼料生産のための技術研修、面積拡大に係る情報交換、生産資材の共同購入により、効率的な粗飼料生産や技術の向上に取り組む。



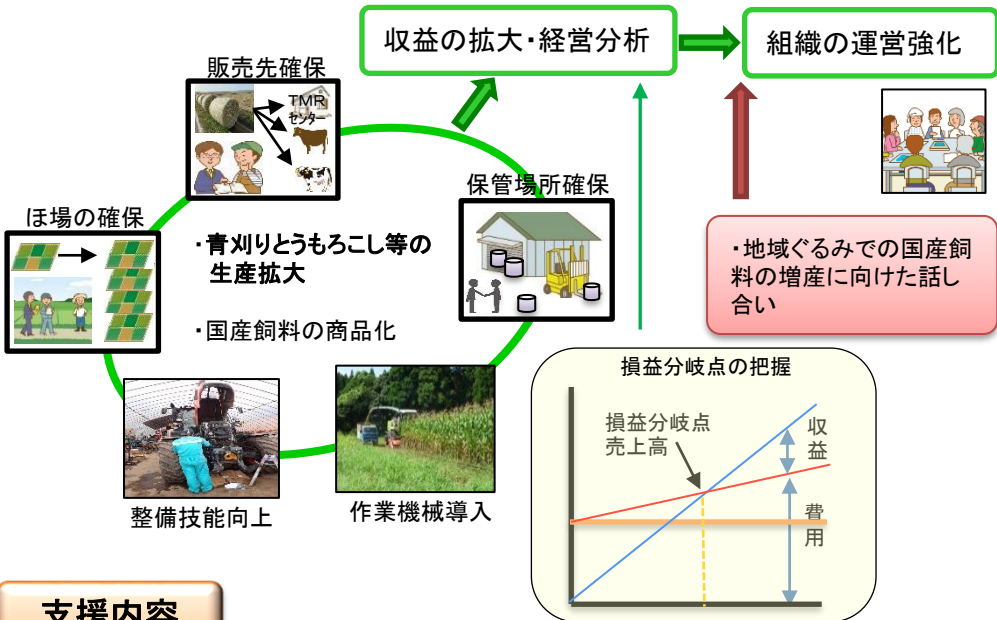
# 畜産生産力・生産体制強化対策事業

## (飼料生産利用体系高効率化対策事業のうち飼料生産組織強化対策)

飼料生産組織が取り組む ①飼料の生産販売や作業受託の拡大による組織の運営強化、②地域の飼料増産体制強化、③ICTの活用等による作業の効率化を支援し、国産飼料の供給力を向上させる。

### 飼料生産組織の運営強化、地域ぐるみでの飼料増産強化に向けた支援

飼料の生産販売又は作業受託の拡大を行い、収益向上による組織の運営強化を図る取組を支援

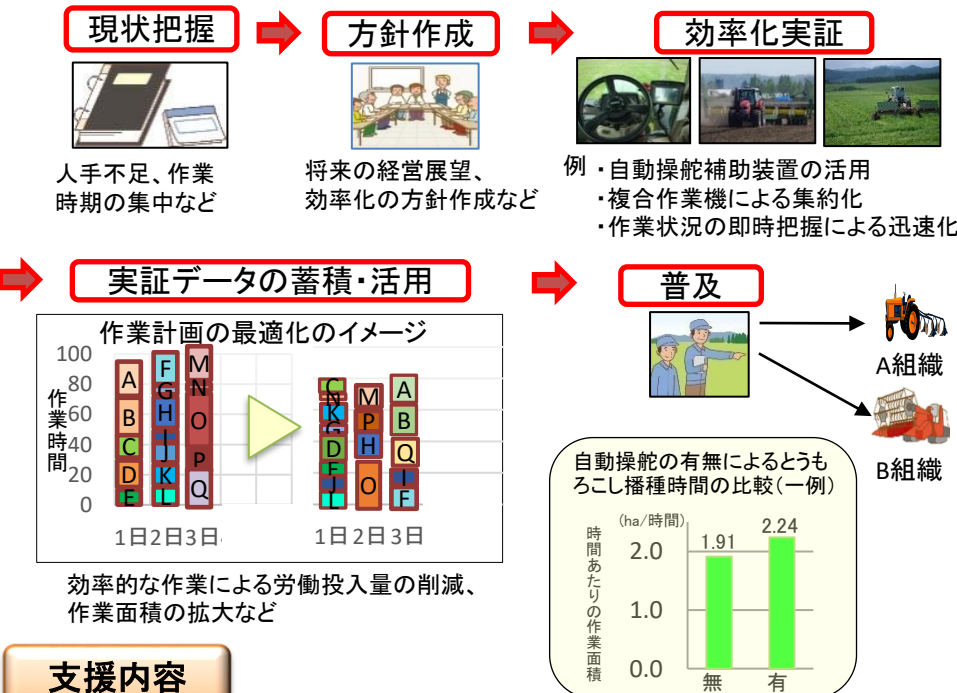


#### 支援内容

- ①販売先、ほ場、保管場所確保の調整、農業機械整備技能士免許取得等に要する取組を支援  
【補助率：定額、1/2】
- ②青刈りとうもろこし等の飼料の生産や稲わら収集作業の拡大に必要な機械の導入 【補助率：1/2】
- ③地域ぐるみでの青刈りとうもろこし等の増産を行う活動を支援  
【支援対象：地域協議会等 補助率：定額】

### ICTの活用等による飼料生産作業の効率化

現状の作業内容の分析に基づき、ICTの活用とあわせて作業体系等の見直しを行い、効率的な作業体系の実証・普及を支援



#### 支援内容

- ①コンサルタント等による現状の分析、作業体系の見直し方針策定、実証データ分析・活用やその普及に要する取組を支援  
【補助率：定額、1/2】
- ②ICTの活用等による省力化、生産作業工程の集約化等に、必要な機器・機械の導入を支援  
【補助率：1/2】